
オリグチ

Mr.あいう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

オリグチ

【Nコード】

N7534H

【作者名】

Mr. あいう

【あらすじ】

その会社の社訓は「ストレスを持ち続けない」その会社のある会議室には、秘密があった・・・

「うあ〜」。

またやってしまった。何回目だろう。せっかく資料を作ったのに、保存せず消去。

パソコンなんて学校でしか触ったことないのに、技術の授業をまじめに聞いとけばと思う今日この頃。

・・・まったく、プロになれる実力もないのに、野球に明け暮れていたあのころの自分を張り飛ばしに行きたい。

「やる気がうせた〜」

つぶやいたつもりが、思ったより大きな声が出ていたらしい。オフィスの数人がこちらの方を向いている。

「あ〜あ、またやっちゃったんですか、だから資料は逐一保存。これ、メモですよ。」

同年代の上司が目ざとく見つけてきた。

「はあ〜つい、以後きおつけまあ〜す」

あきらかに気のない返事をしておく。

だが上司はそれで納得したらしい。

いい職場だ、ほんとにそう思う。

二度手間の、最もめんどい「同じ仕事を二度やる」と言う作業を終え、いつもの会議室へ向かう。

最初はとても驚いて、それから上司をぶん殴って常識論をさんざん述べたりしたし、警察に電話しようとした。

「あれから二年、か」

この職場の、このシステムにもすっかり慣れてきた。廊下突き当りの、左の会議室。

扉を開けると、そこにいたのは、ポロポロのなりをした生物だった。

首には鎖がかかっており、着ているものは黒い布が申しわけ程度に体にまとわりついているのみであちこちに生傷や腫れ物ができている。見ているだけで不愉快だし、時折、「コガア〜、コオオガアア〜」と鳴く。そばにいただけで不愉快だ。だが・・・

そいつに近づくと、必要以上におびえていて、鎖が伸びきるまで後ずさった。

その光景すら、不愉快だ。速いとこ済ませよう。

そいつに近づき、その腹を、思いっきり蹴りつけた。

「ガヒュッ。グヒッ。ゲホッ。」

空気が漏れる音、ただ、腹から空気を吐き出すようなそんな音が会議室にこだまする。

そいつは特に抵抗もせず「コガア〜」とたまたまに鳴いた。その声が腹

立たしく、なおも蹴り続ける

しばらく蹴り続けると、幾分すつきりした。床にうずくまるそいつを一瞥し、会議室を出た。

「ストレスは持ち続けられない」それがわが社の社訓だ。社員全員、文句もなく、このシステムに満足していた。

最近、仕事もうまくいくようになり、上司に重要な企画を任された。

「頑張ってください、君の上のポストは今ちょうど開いてるんです。これが成功したら、私から社長に君の頑張りを話しておきますから」

これが成功したらまず昇格はまちがいない。ようやくつかんだ出世のチャンス。逃すわけにはいかなかった。

企画は順調に進んでいたが、その分ストレスも大きい、目に見えて会議室に足を運ぶ回数が多くなった。

ぼんやりと足を動かさし、やつの腹へ蹴りを入れながら、それでも最近では、ストレスは消えなかった。

ある日、野球中継を見ながら、こんなことを考えた。

「そういえば、うちにまだバットってあったかな・・・」

そいつをバットで叩きのめしていると、初めて試してみたときの感覚がよみがえってきた。

無抵抗の相手を一方的に殴り、蹴り、絞め、動かなくなるまで暴力

を振るうあの恍惚感。

圧倒的強者として、絶対的恐怖として、相手を蹂躪する。あの感覚。やがてバットを打ち下ろす音が、無機質なものへ変わった。

そいつは、ただの物体になって、開いたままの目で、虚空を見つめていた。

「殺しちゃいましたか、残念、あなたには仕事を頑張っただけでほしかったのに」

声のするほうへ目をやると、上司が扉の向こうへ立っていた。

「あなたが殺したその男、オリグチさんって言うんですけど、あなたの前任者の名前です」

「前任者？」

上司が開けた扉から、同期や顔見知り、まったく知らない社員までぞろぞろと入ってきた。

「そうです。あなたが次の、この会議室の住人です」

いくつもの手に取り押さえられる。必死に抵抗するが、顔と言わず腹といわず、めっちゃめっちゃに殴られて、意識が遠のいていく……

あれから、いくら時間がたった、何日目かを数えていたのは、10日目までだった。

寝ていても起きていても当然の暴力におびえる日々が続いていく。

(後書き)

自分の趣味だけで書いてしまいました。
独りよがりでなければいいのですが・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7534h/>

オリグチ

2010年10月16日03時49分発行